

2016年度のアンケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

《はじめに》

2016年度の支援者アンケートは、2015～2016年に活動された支援者を対象に実施致しました。沢山のご意見・ご感想・ご質問をお寄せ頂き有難うございました。アンケートの集計結果はデータとして既に皆様の手元にお届けしておりますが、その中で運営委員会の見解あるいはコメントをまとめるべきと判断したものにつきまして、運営委員会としての「見解」を以下のようにまとめました。ご一読頂き、各位の今後の日本語支援活動に役立てて頂ければ幸甚です。

(注：アンダーラインの文章はアンケートのご意見で、「→」に続く文章が運営委員会の「見解」です。)

(2016年12月16日 夢気球 運営委員会)



質問B：支援活動の中で、困ったことや気づいたことについて

＜困ったこと＞

■ 日本在住歴の長い学習者を支援しているので、必要に迫られて我流の方が先行してしまっているのを矯正できないのが気になっていますが、日本語でゆっくりいろんな角度から楽しいおしゃべりをしようと思うとつい間違いに対して甘くなってしまうので、気持ちはそれらの板挟み状態です。

→ 状況はよく理解できます。話を楽しくスムーズに進めるためには細かい指摘は妨げになります。一方、間違いを指摘しなければ学習者は日本語を適切に学べません。つまり双方の兼ね合いが大事だということになります。

日本語教室は学習者も支援者も楽しみながら進めるのが良いのですが、その舵取りは支援者の役目です。「板挟み状態」と表現されているのは、その役目をよく認識されているからだと思います。機会があれば、他の支援者の方々の意見も聞いて参考にして頂くのが良いと思います。

■ 中級者への支援において、どのような教材を使えばよいのか、又どのような教え方が良いのかが、よくわかりません。できる限り多くの言葉を引き出し、間違った日本語の訂正を促すように心がけています。

→ 教材選びは誰もが悩むところだと思います。支援者が教材を選ぶということであれば、学習者のレベルを適切に推測する必要がありますが、それがなかなか容易ではありません。特に中級者であれば自分の好みとか何を主体的に学びたいか意思がかなり明確だと思われます。教材は学習者に選んでもらってもいいし、お互いに相談して決定しても良いと思います。

例えば、各種の新聞やNHKのNews Web Easy（内外のニュースを平易な日本語で説明しており、検索可）、あるいは、学習者の出身国の事柄が掲載されている雑誌等も活用できます。又、同レベルの学習者の教材等を参考にするのも良いと思いますし、クラスが同じ時間帯であれば、その支援者との話し合いも有効だと思います。学習発表会等への参加は視野を広げるいい機会だと思いますので、是非検討をお願いします。

2016年度のアンケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

<気づいたこと>

■ 学習者が持っている教材を使って日本語を勉強しているが教材の日本語と、仕事場で日常的に使われる日本語との違いに学習者が戸惑ったり、疑問に思うことがあるそうです。

→ ご指摘のとおり、語学の教材では特定の状況を設定して教材が作られています。学習者が実際に会話をする状況と、教材の状況設定は違う場合の方が多いと思われる。例えば、両親に話す言葉、先輩に話す言葉、友達に話す言葉、子どもに話す言葉はそれぞれ違っています。日常の会話とビジネスで話す会話でも違いがあります。

学習者が疑問に感じているような様子が見受けられたら、その時の状況（つまり、T.P.O.）をよく説明してあげるのが良いのではないのでしょうか。白板に書いてます問題を共有し説明を加えた後に、対話形式で役割を決めて演じてみるのも理解を早める方策だと思います。

■ 過去の経験から失敗だったと思うことは、会話優先を希望する学習者に対して基本文型をおろそかにしたことです。このことから今は、多少時間が掛かりますが基本文型からしっかり教えて行くようにしています。

→ 長い経験を持つ支援者の方から聞く言葉には ずっしりとした重さを感じます。私達は学習者の希望を尊重すべきですが、それに流されてはいけないということだと思います。

会話に重点を置くにしても、学習者がしっかり日本語を学べるかどうかポイントになりますので、私達は そのことを忘れないようにしたいものです。要は「急がばまわれ」だと思います。

■ できるだけ学習者が勉強したいという教材を使用しています。

→ とても大切なことだと思います。学習者が社会人であれば、自分の好みや主張がはっきりしている場合が多いので、学習者の意思を尊重する姿勢を示すことは学習意欲を引き出すことにつながると考えられます。

<ご要望>

■ 他の支援者の経験や失敗談を聞いて参考にさせて頂きたいです。

→ 支援者交流会（おしゃべりの集い）や学習発表会でいろんな話が出ます。実践に基づいた話が多く出ますので、それらの機会を利用して頂くのが良いと思います。

■ 特に困ったことはありませんが、他のクラスの見学はしてみたいと思います。

→ 他の教室を見学するのは有意義だと思います。夢気球の教室であれば、掲示板に貼ってある教室の一覧表から教室のある日を確認の上、具体的な希望曜日、時間などを相談して頂くのが良いと思います。（見学や実習については申し出て頂ければ、いつでも相談に応じます。）

2016年度のアナケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

■ 支援者同志の研修、交流、親睦、公開授業など連携を深めることはできないでしょうか？ 教え方向上のためにも必要かと思ひます。

→ 支援者交流会への参加、学習発表会への参加、スキルアップ研修会への参加などが、教え方の向上に大いに役立つと思ひれます。どうぞそれらの活用をお願いします。支援者、学習者双方の負担を考えると公開授業の実現は難しいと思ひます。

■ 郊外学習はダメですか？「百聞は一見に如かず」と言ひます。私は学習者の希望をうけ、支援者2人、学習者3人で奈良を案内したことがあります。大変良い思い出となつたようです。

→ 確かに通常の日本語教室は、ぱれっと JOYO 名城陽市国際交流協会（JIEA）にて行くと「夢気球規約」で定められています。しかし、それ以外ではダメということではありません。前記の場所以外で行う授業を課外授業と呼び、実施することができます。（例えば、見学、食事、買い物、花見、茶会など内容は多岐にわたります。）

課外授業は支援者が必要と判断し学習者の了解が得られれば、実施することができます。この場合は必ず、課外授業の届を JIEA に提出してください。（届け出用紙は JIEA にあります）届け出を怠ると事故があつても学習者、支援者ともボランティア保険の適用ができない場合がありますのでご注意ください。

質問 C：運営委員会について

<ご意見・ご要望>

■ 全く何のお手伝いもできないのに、自分の都合だけで活動できているのはひとえに運営委員の方々の熱意によるものだと思ひています。常々、感謝しております。

→ 有難うございます。運営委員会としては会員の皆様に支障なく活動して頂ける場所と機会が継続的に提供できるように常々努力をしています。夢気球の活動が活発になるためには、会員の皆様のご意見をできるだけ多く集めることが第一歩だと思ひます。

アンケート調査ほか、機会がある毎に遠慮なくご意見・ご感想などをお聞かせ頂くようお願い致します。

■ ご苦労様です。毎週金曜日とは大変ですね。内 1 回は支援者の交流の機会に定例化することは如何でしょうか？ そのあとの時間でレッスンを持てば更に研修ができると思ひます。

→ 月に 1 回程度、支援者交流の機会を作って定例化してはどうかというご意見ですが、ぱれっと JOYO では毎週日曜日の教室終了後にミーティングがありますので、支援者間の交流や意見・情報の交換ができています。

一方、JIEA の教室の支援者（平日の支援者）は、それぞれ教室の開講曜日が異なるので交流の機会はほぼありません。支援者の交流については以前から易しいようで難しい課題ですのでさらに知恵を出す必要があると思ひます。

2016年度のアンケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

質問D：会報「夢気球だより」について

<ご意見・ご要望>

■子供達の学校で何度か広報委員をした経験があります。今はコンピュータで随分いろいろなことが出来るようになってはいますが、それでもお手間をかけていることですので感謝しています。

→ お読み頂き有難うございます。夢気球だよりはおおむね好評で、毎号楽しみにしているというご意見も頂きました。また、夢気球だよりは京都にほんご Rings のメンバー（希望する方のみ）に電子メールで配信をしています。夢気球の活動には大きな関心を寄せて頂いているようでいつも好意的な感想を聞かせて頂いており、夢気球のPRにも大きな役目を担っていると思います。これからも紙面の充実に向けて努力致します。

■毎号に学習者からの一言欄（100字程度）を設けてはどうかと思います。（可能なら写真入りで）学習者の記念になり、励みにもなると思います。

→ 学習者の日本語習得レベルは様々ですが、感想や意見を書いてもらうことは時々あります。しかし、毎号の掲載はかなり難しいと思います。過去の実例としては「教室の卒業生（短期・長期）の感想文」が一番多かったと思います。

編集方針にも書きましたが「学習者の原稿（支援者の助言も入れての）は原文のまま掲載」を基本としています。記事の利用例としては、先般の学習発表会の内容を授業で使用したところ、学習者の喜びは大きなものでした。この様なケースが増えてくれば歓迎しますので、支援者の方からの働きかけを大いに期待しています。

■学習者向けの夢気球だよりもたまには良いと思います。

→ これが出来ると素晴らしいと思いますが、読者（学習者）の日本語能力の差異にうまく対応した紙面を作るのが難しいので実現は困難だと思えます。

■アンケートの質問BについてQ&Aのような形で載せて欲しいと思います。

→ 一部分を運営委員会の見解として掲載した例は過去にあります。共通の課題で重要と判断されるものについては「アンケート実施後に運営委員会の見解」として配布してきました。見解については今後も皆様にお伝えしていく予定です。

■指導のワンポイントアドバイスを載せていただくと参考になります。

→ ワンポイントアドバイスは、状況が多岐にわたると思われまますので、記事としての掲載は少し難しいと思われまます。他の支援者や運営委員に遠慮なく相談をして頂くのが良いと思えます。

■PDFファイル（電子ファイル）をメールで送ってもらえれば十分（郵送は無用）だと思えます。

→ ご指摘の点はよく理解できますが、運営委員会では「すべての会員の皆様に夢気球だよりを手にとって読んで戴くこと」を基本理念としております。

2016年度のアンケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

<ご質問>

■ ご苦労様です。編集会議は金曜日の運営委員会に入っているのですか？

→ 編集会議は、運営委員会で行います。夢気球だよりの作成については下記の過程を経ています。
とりまとめは、広報担当者の職分となります。

- ① 前号以降の大きな行事を次号記事の中心としていますので、広報担当者が「そのタイトルと執筆者及び概略字数」を運営委員会で提案・議論して承認を得ます。
- ② 出稿された時点で JIEA,運営委員にメールで伝達して次の会議で検討を加えます。但し、内容については、署名記事でもあり大幅な変更をすることはありません。又、学習者や支援者の原稿は「原則としてそのままの状態」で掲載します。
- ③ 写真の選定も広報で行って承認された原稿とともに編集者の西山さんに送稿します。写真については殆どを JIEA にお願いしています。(各クラスの授業風景等も同様です)
- ④ 編集後の校正は主に広報担当が行い、編集者とやりとりをして完成させ、最後に運営委員会で承認を得ることとしています。
- ⑤ その後、印刷して発送します。印刷や発送にかかわる費用については JIEA の協力を頂いています。(夢気球だよりは「手に取って読んで戴く」ために紙ベースでお届けしていますが、費用対効果を上げるために多くの場合、役に立つ情報や案内を同封してお送りしています。)

夢気球だよりへの投稿は大歓迎ですので、運営委員か JIEA に遠慮なく申し出てください。

質問 E：掲示板について

<ご意見>

■ ぱれっと JOYO での支援のため掲示板を見たことはあまりないのですが、掲示板が設置されているということ自体、活気があって素晴らしいことだと思います。

→ 有難うございます、励みになります。参考までに掲示板の設置過程は下記の様です。

- ① 皆さんに情報発信ができるのは「夢気球だより・各種行事の案内等」ですが、もう少し何とかならないかとの意見も出ました。JIEA から白板の提供も受けましたので「掲示板」と名付けて活用することとしました。掲示板に関する職務は広報担当者が担っています。
- ② 開設は 2015 年 5 月 15 日で、掲示内容は下記の様です。(1 年半経過しました)
 - ・運営委員会での議論の内容等 → 夢気球 運営委員会だより (約 2 か月/回)
 - ・各種行事の案内や実施済行事の写真等の掲示
 - ・毎月の「ぱれっと JOYO/JIEA」のクラス編成状況 (庶務担当者が作成)
- ③ 現在は「夢気球 運営委員会だより 第 10 号 (2016 年 12 月 01 日付け)」が掲示されており、内容は下記の様です。
 - 1) アンケートや夢気球だよりの送付等に関して：
 - ・アンケート②のまとめ (活動中の支援者向け) に対する運営委員会の見解について議論。
 - ・「夢気球だより第 23 号」の発刊。

2016年度のアンケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

- ・「アンケート②まとめ及び夢気球だより」を11月25日に発送済。
 - ・「アンケートの質問等に関する運営委員会の見解」を12月16日に発送予定。
- 2) 夢気球発足からの足跡に関して：記憶の新しい時点で「発足からの歩み」をまとめ中。
- 3) 夢気球ホームページの改訂：工事中。

■JIEA に行く機会が殆ど無いので情報については知らないことが多いと思いますが、今のところ支障をきたすほどではないと思っております。

→ 掲示板の内容については「白板ではありませんが、紙面にて」ばれっと JOYO と共有していると考えています。但し、支援しておられない方々につきましては、現時点ではこの情報に接する手段は申し訳ないですが JIEA 等へ来られない限りありません。第1号から第10号までの全てをファイルにとじて掲示板の近くに置いてありますので、自由にご覧下さい。

<ご質問>

■掲示板は、JIEA とばれっと JOYO で内容が同じですか？ また、システムは一緒なのですか？

→ 内容はすべて同じです。伝達方法が「白板に貼る（JIEA）」か「運営委員から説明する（ばれっと JOYO）」かの違いがあるだけです。

質問 F-1：学習発表会について

<ご意見>

■学習発表会のまとめ（第2回～第5回）の資料を頂き、さっそく読ませて頂きました。意欲的に取り組んでおられる様子の一端が伺え、改めて学習の成果を発表する場の重要性を認識致しました。また、できれば日程の合う日に私も参加させていただきたいです。

→ 学習発表会は、何度も開催している内に学習者にとって必要不可欠なものだと思えるようになってきました。多くの人前で自分の考えや感想などについて話すことは、言葉を学ぶ人達にとって非常に良い経験になるのは当然ですが、支援者も学ぶことが多いということに気づいたからです。

学習者が発表する前に支援者から教室の様子や学習者の客観的な紹介などがありますので、自分が担当する教室とどこが同じでどこが違うかを直感的に理解できます。時には見習うべきことが見つかることもあります。次回は2017年2月26日（日）にばれっと JOYO で開催する予定です。是非参加してみてください。

■何回か参加しましたが、発表会の曜日と時間の設定に工夫が必要ではないでしょうか？ 現状では、役員の方々の参加が中心にならざるを得ないと思います。

→ ばれっと JOYO で開催する学習発表会は委託事業であるため一般市民の参加を前提に企画していません。開催日は、ばれっと JOYO が指定する期間の土曜日か日曜日になりますので、あまり自由度はありません。

2016年度のアンケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

一方 JIEA で開催する学習発表会は基本的に発表する学習者の教室のある曜日に開催しています。学習発表会は、学習者本位に考えて企画していますので日程を自由に変えることは困難です。学習者だけではなく支援者のみなさんにとっても極めて有意義な機会ですから万障繰り合わせの上、出席をお願い致します。

質問 F-2：支援者交流会（おしゃべりの集い）について

■場所を変えて気軽に集まれる（例えば外食、忘年会など）もいいと思います。まず、支援者が纏まって楽しむことも重要だと思います。

■お食事会などがあれば参加したいと思います。

→ これら二つのご意見は、肩の力を抜いてもう少し楽しめる支援者交流会の形を考えた方が良いというご指摘だと思います。運営委員会で全員の賛同がありましたので、過日（11月25日）「アンケート②のまとめ及び夢気球だより第23号」を送信する際に、お手伝いをお願いしました。

（メールにて）2名の方からお返事があり、”残念ながら所用があって参加できないが、今後もこのような機会を是非”との事でした。又、12月16日（今年最後の運営委員会）に12時頃から近くのレストラン（インド系）で食事会を行う件もご案内の通りです。

■おしゃべりの内容が毎回同じになってしまうので面白味が少なくなっていると感じます。

→ 長年支援を続けてこられた方にとってはそういう側面があることをよく理解しています。他の教室の様子を聞かなくても自分の教室は十分にやって行けるという面もあります。しかし、今から支援を始めようとする人にとっては、他の人からのアドバイスや、他の教室の様子などをしっかり聞いて参考にしたいという気持ちが強いと思われます。話題が同じものになる可能性は高いですが、その内容は同じではないということも考えられます。具体的な改善案があればお聞かせください。

質問 F-3：5周年記念 学習者/支援者交流会について

〈ご意見・ご提案など〉

■日本人の根本的な心、つまり季節をめでたり自然を感じ愛する心、侘び寂びの感性、世界遺産の和食を身近に体験できる機会（料理教室もその一つ）を増やすと、学習者に日本をよりよく理解してもらえて学習意欲もわいてくると思います。実習生の人達に京都の寺院、伝統的な祭りの風習（弘法市、北野市、お花見など）を体験してもらう機会を提供できないかと思います、せっかく京都で生活しているのですから。

→ 学習者の皆さんに日本で色々な体験をしてもらいたいというのは日本語を支援している人達の願いだろうと思います。課外授業という形で支援者が学習者を引率するのが最も実現しやすい方法だと思います。京都市内に限らず、近郊のイベント、祭り等を通じて日本を体験できると思います。

課外授業に際しては JIEA に届を出して頂きますが、届を出すことによって学習者も支援者もボランティア保険でカバーされます。（ただし、学習者は JIEA の年会費を払っている人に限りカバーされます。）

2016年度のアンケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

■ 今回は日程の都合がつかないので参加できませんが、浴衣の着付けのお手伝いや日頃全く交流のない学習者の皆さんとのふれあいはとても楽しいものです。

→ 5周年記念の交流会では、JIEAのスタッフが一人で着付けを行なったので、大変な忙しさでした。今後、手伝って頂けるようであれば是非お願い致します。

■ もっと広く一般市民の参加まで考えられませんか？

→ 記念交流会はタイトルが示すように対象を学習者（及び家族、友人）と支援者に限定しています。一般の方を加えての交流会は、従来からの学習者・支援者交流会の趣旨と違ってきますので、実施の予定はありません。

一般市民との交流という意味では毎年、ぱれっとJOYOにて（ぱれっとJOYOから委託された事業として）学習発表会を開催します。次回の開催予定は2017年2月26日（日）です。

■ 昨年参加しました。内容をいろいろ変えてやったら面白いと思います。（例えば、生け花、お茶、空手の型など）特に、簡単な民族舞踊（盆踊り、諸外国で伝承されている踊りなど）が皆で一緒に踊れたらとても楽しそうです。

→ 学習者・支援者交流会は、日本語を通して学習者と支援者の交流を図ることが趣旨ですので、生け花、お茶などは個別の教室で課外学習として実施するのが良いと思われます。今までにお花見やお茶の会などが実施されています。

活動全般についてのご意見

<ご要望>

■ 担当以外の学習者の名前と顔が覚えられないので、3か月に一度ぐらいのペースで名簿を配って頂きたいです。街であった時に名前が声掛けできるようになればと思います。

→ ご指摘のように、学習者の名前がわからないということはよく理解できます。しかし、個人情報の扱いの関係もあり、顔写真と名前名簿は公開できません。ただ、それぞれの教室の学習者と支援者の写真は、全てではありませんがJIEAに掲示していますし、掲示板には月毎の教室一覧表が掲示されていますので、それらを参考にしてください。

■ 教室ばかりではなく戸外へのレクリエーションの実行は難しいですか？経費を抑えるために城陽市のバスを利用できれば良いと思います。

→ 戸外でのレクリエーションは各教室で課外授業として実施できます。城陽市の公用バスを利用することは可能ですが、雨天対応などに難点があるのと、企画や引率などの面で難しい部分があり、バスを使っているレクリエーションは、夢気球としては実施予定がありません。

2016年度のアンケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

■ いつも活動をサポートして頂いて有難うございます。支援者募集のメールが来ますが、支援される側（学習者）の日本語能力のレベルが直ぐに分かるような表現（例えば、A:ほとんど話せない、B:日常のあいさつ程度、C:日常会話ができる、など）、支援者がどのように支援して行けるかを全ての支援者が把握できるものを作成することはできませんか？ これを作るだけで心構えもできるかと思います。

→ 現在の支援者募集のメールは、学習者の日本語能力を言葉で表現していますので、A、B、Cなどとランク分けで表現するよりむしろ微妙な点がよくわかるのではないかと考えています。もし気になる点がある場合は個別にマッチング担当者に問い合わせさせて頂くのが確実かと思います。

<ご要望>

■ 毎年、総会資料の議事次第で気付くことですが、例えば2016年4月23日の資料で言うと、①2015年の事業報告、会計報告、監査報告が了承されて、②2016年の議事（役員、事業計画、…）を進行すると思うのですが、如何でしょうか？

→ 本来はご指摘の通りです。夢気球の総会の進め方は、分かりやすさと簡便さをメインにしています。例えば、行事は今年度と次年度（つまり実績と次の計画）をすぐに比較できるように対比して説明しています。実績と計画は分けて話をするのではなく、両方含めて一括で承認を頂いています。規約を変更するような場合は新旧を対比して細かく説明をした上で、承認をお願いしています。夢気球の総会では今後も形式ではなく実用を重視して進めようと考えていますので、ご理解をよろしくお願い致します。

■ 異文化交流に関心のある人が年々増加しています。市民の願いとボランティア精神を汲み上げて頂いて組織活動として活発化して行って下さることを希望しています。

→ 夢気球では日本語教室を通して多文化共生社会の醸成を目指しているのはご承知の通りですが、他に学習発表会や国際サロンの開催も重要な役目を果たしていると考えています。夢気球のこれらの活動を活発化する努力は今後も続けていきます。是非ご協力をお願いします。

<ご意見>

■ 夢気球はとても雰囲気良く、先輩からさりげなくサポートを頂くことができ、良い日々を過ごさせて頂いています。有難うございます。

→ 有難うございます。この言葉は夢気球の全支援者にとって大きな喜びになると共に、力強い励ましになると思います。

■ ことばの通じない異国の地での生活の大変さは私も若い時に2年半の経験がありますのでよくわかります。その大変さを少しでも軽くしてあげられたらと願っていますが（そばに寄り添うことだけでも）、それをこうして組織化されたボランティア団体が行って下さっていることをとても嬉しく、心強く思っています。これからますます世界のグローバル化は進むでしょうが、華々しい場所だけでなくごく普通の社会の中でグローバル化が進めば素晴らしいですね。

2016年度のアンケート調査 ご意見・ご質問に対する運営委員会の見解

→ ご指摘の通りだと思います。2011年9月に夢気球が設立される前から、数名の先輩たちが日本語支援ボランティアとしてすでに活動されていました。その頃は相談したいことがあってもその相手が少ないという状況でしたので殆どの場合、自分で判断しながら活動を進めて来られたようです。

その先輩たちを含めて現在85名の会員数になりましたので、何らかの相談や情報交換がやり易くなったと思います。城陽市や近隣に住み夢気球の日本語教室に通う外国の人達が「日本に住めてよかった！」と思ってくれば、私達は大きな満足感が得られると思います。

<その他情報など>

■ 久御山町の広報に工場見学の案内が載っていたので参考までに同封します。学習者の希望が多ければ教室外活動として如何でしょうか？

→ 情報を有難うございます。学習者を対象にした課外授業の意味合いであれば、課外授業の届を出して支援者が引率するのが基本になっています。教室をいくつかまとめて課外授業をすることもできます。その場合は支援者の代表を選び同様に届け出てください。(届け出用紙はJIEAにあります)届を出すと日本語教室を開講したのと同様と見なされ、ボランティア保険が適用になります。

■ いつもお世話になり有難うございます。現在、都合により支援活動を休止させて頂いておりますが、また復帰した際には他の支援者の皆様や学習者の方々と共に楽しく、活気のある活動ができれば幸いです。

→ 会員は誰でも自分自身を取り巻く環境や家族の事情などで日本語支援活動のための時間抽出が難しくなる場合があります。運営委員会では会員それぞれに種々の事情があるということをよく理解しています。そういう時には遠慮なくボランティア活動を一時的に休止し、環境が変化して気持ちや時間に余裕ができれば再開して頂くのが最良だと思います。なお、休止や再開に際しては連絡をよろしくお願い致します。

——— 以上 ———